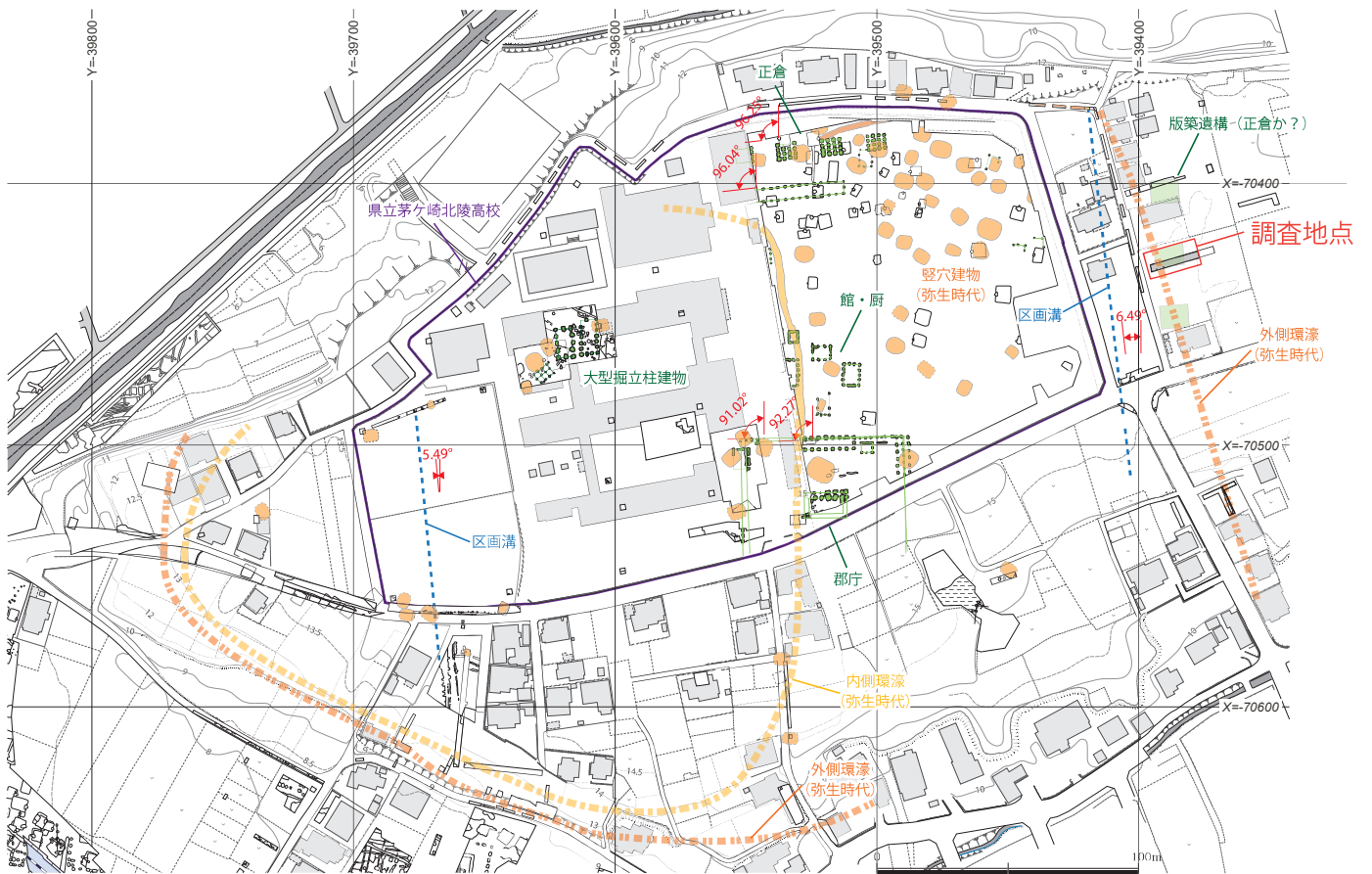




史跡下寺尾官衙遺跡群及び史跡下寺尾西方遺跡遺構配置図 (1/2000)

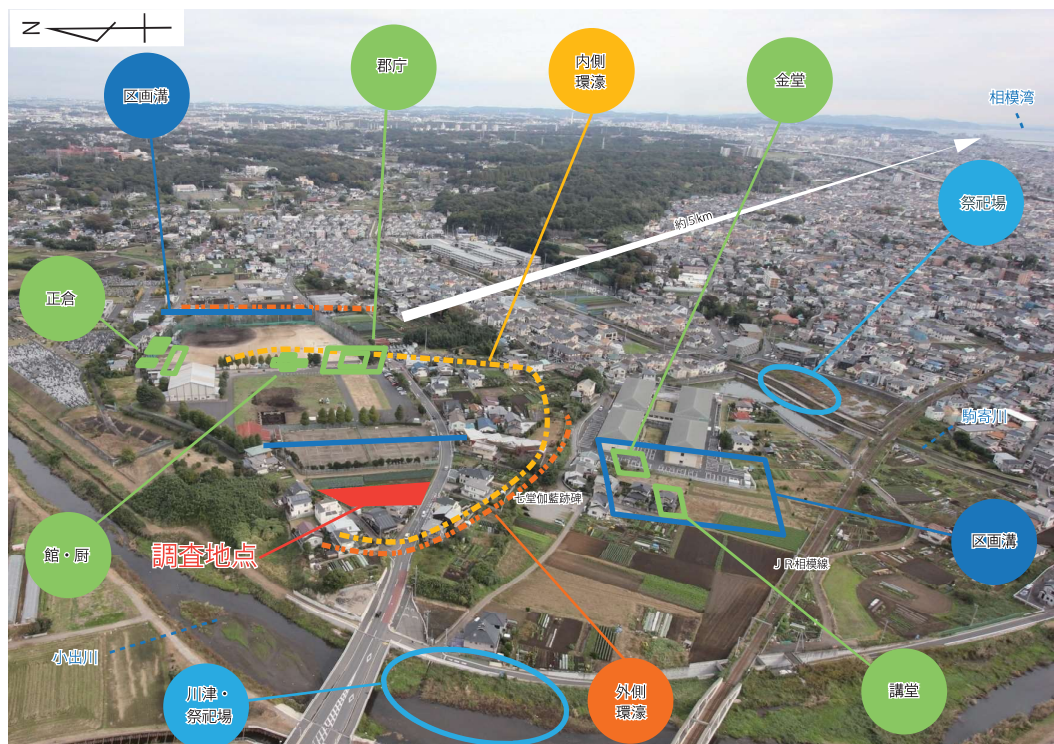
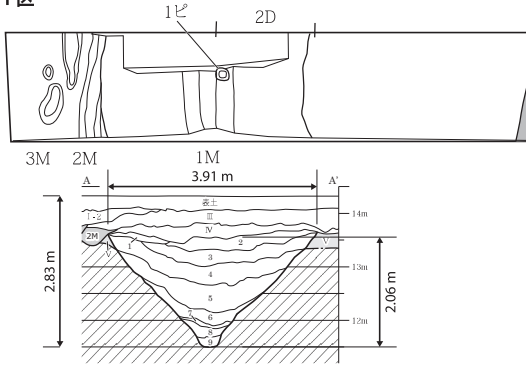


写真1 史跡下寺尾官衙遺跡群・史跡下寺尾西方遺跡遠景（北西から）



第6次調査(大村ほか2019『茅ヶ崎市埋蔵文化財調査集報告Ⅳ』)

1区



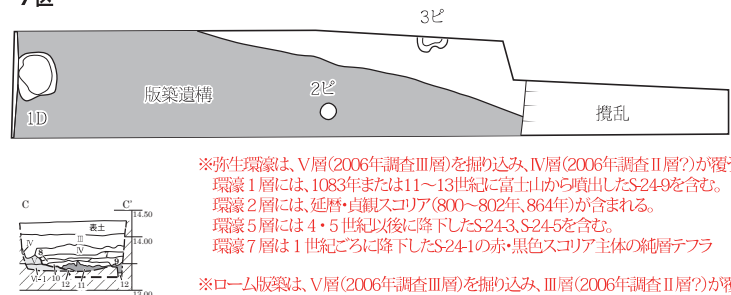
1号溝(環濠)

- 第1層 黒褐色土：土粒やや密で、橙色スコリア少量含む。
 第2層 黒色土：大きめな火山灰を含む。しまりややあり。
 第3層 黒褐色土：土粒やや密で、橙色スコリア少量含む。しまりややあり。
 第4層 黒褐色土：第3層に近似するが、スコリア減少し、しまりややあり。

まりあり。

- 第5層 黒褐色土：第3層に近似するが、色調やや暗い。
 第6層 黒色土：第5層に近似するが、しまり強くなる。
 第7層 暗褐色土：中粒の火山灰を含む。しまりない。
 第8層 暗褐色土：土粒密で、しまり弱い。
 第9層 暗褐色土：土粒やや密で、しまり弱い。

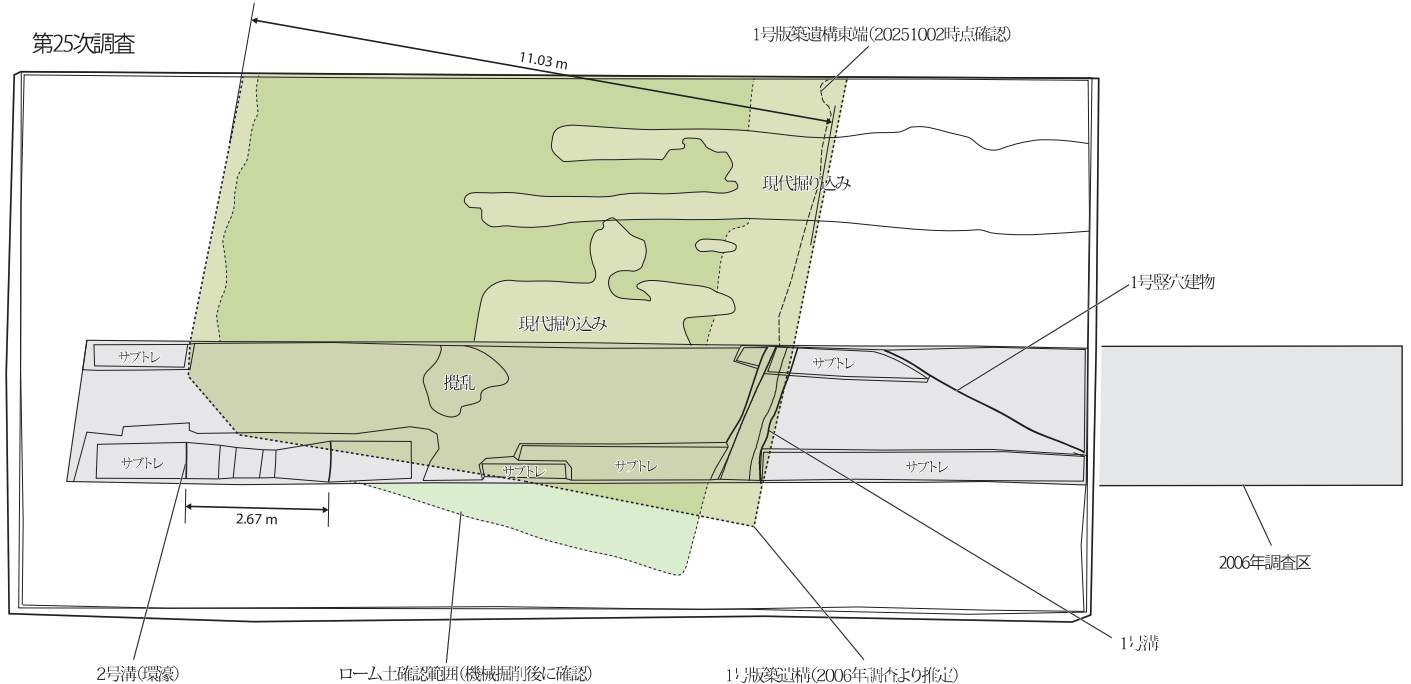
7区



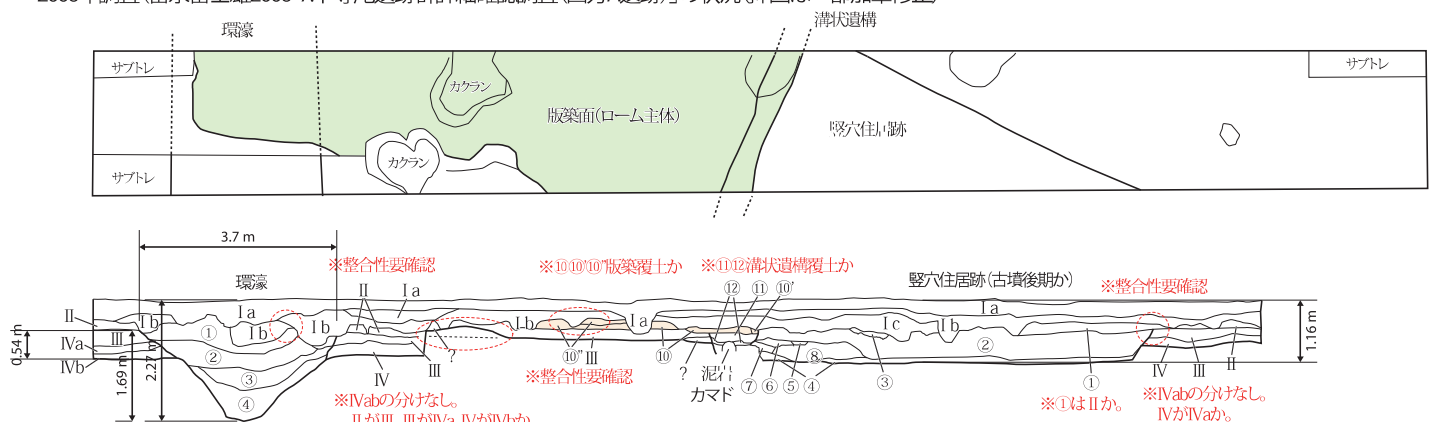
※弥生環濠は、V層(2006年調査Ⅲ層)を掘り込み、IV層(2006年調査Ⅱ層?)が覆う。環濠1層には、1083年または11～13世紀に富士山から噴出したS-24-9を含む。環濠2層には、延暦・貞観スコリア(800～802年、864年)が含まれる。環濠5層には4・5世紀以後に降下したS-24-3、S-24-5を含む。環濠7層は1世紀ごろに降下したS-24-1の赤・黒色スコリア主体の純層テフラ

※ローム版築は、V層(2006年調査Ⅲ層)を掘り込み、Ⅲ層(2006年調査Ⅱ層?)が覆う。一部、IV層(2006年調査Ⅲ層)が覆うが、基本層序によれば、IV層は古墳の遺構覆土に近いとされる。一方、延暦貞観スコリアを含む環濠2層を覆うため、挿入中のIV層はⅢ層(古代後半から中世)の範疇か。上部の影響で本来的なIV層(古墳群代)の残存は不良か。IV層中にみられる大粒のスコリアを延暦・貞観スコリアと混同している可能性あり。

第25次調査



2006年調査(富永富士雄2006『7.下寺尾遺跡群詳細確認調査(西方A遺跡)』の状況(挿図は一部防筆修正)



【弥生時代環濠】

- ① 黒色土 2～5mmのスコリア多量に含みざらつく。しまりやや強い。
 ② 黒褐色土 橙色スコリアを多く含む。しまりやや強い。
 ③ 黒褐色土 ②に近いが紫色味帯びる。しまり強くざらつく。
 ④ 黒褐色土 2～5mmのスコリア多く含みざらつく。しまりやや弱。

※弥生環濠は、Ⅲ層(6次調査のⅣ・Ⅴ層に相当)上面から掘り込み(古墳住居と同じか)。
 ①層には延暦・貞観スコリア(6次調査2層)と考えられる大粒のスコリアが含まれる。

※ローム版築は、Ⅲ層上に構築され、Ⅰ・Ⅱ層が覆う。

【遺跡の基本層序】

- I 暗褐色土 耕作土。宝永スコリアを全体に含み、しまり強い。Ⅰa層は現耕作土。bはしまり増す。cは宝永スコリア含む。 ※6次調査のⅠ・Ⅱ層に相当
 II 黒色土 1～3mmの黒色スコリアを含み、橙色スコリアを多量に含む。ややざらつくが粘性、しまり強い。上部にしまり弱のところがみられる。 ※6次調査のⅢ・Ⅳ層に相当か。Ⅳ層は古墳の遺構覆土に近く、Ⅲ層は古代後半から中世以降とされる。
 III 黒褐色土 Ⅱ層よりスコリア減るが、まだ黒味強く、粘性増す。 ※6次調査のⅤ層に相当か。Ⅴ層中から弥生遺構掘り込まれる。
 IV 暗褐色土 橙色スコリアをまばらに含み、粘性増し、しまり最も強い。aは橙色スコリア多く、bは少ない。 ※6次調査のⅥ層(ⅡB)に相当か。a層は6次調査のⅤ層か。
 V 黒褐色土 Ⅳ層より明らかに暗い。粗い。橙色スコリアをわずかに含む。Ⅳ層よりしまり弱まりソフト。 ※6次調査のⅦ層(ⅡB)に相当か。
 VI 暗黄褐色土 ローム漸移層。粘性強くややねっとりする。 ※6次調査のⅧ層に相当か。
 VII 黄褐色土 ソフトローム。粗粒(3～6mm)橙色粒、白色粒を含む。

